

J Aバンク長崎における地域密着型金融の取組状況（2018年度）

J Aバンク長崎（長崎県下 J Aと農林中央金庫長崎支店）では、農業と地域社会に貢献するため、2016～2018年度 J Aバンク長崎中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

2018年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク長崎は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

（1）農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク長崎は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2019年3月末時点の J Aバンク長崎の農業関係資金^(注1)残高は20,390百万円、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は4,277百万円を取り扱っています。
(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
(注2) J Aバンク長崎が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

| | 2019年3月末現在 |
|-------------|------------|
| 農業 | 19,295 |
| 穀作 | 295 |
| 野菜・園芸 | 1,965 |
| 果樹・樹園農業 | 577 |
| 工芸作物 | 171 |
| 養豚・肉牛・酪農 | 4,831 |
| 養鶏・鶏卵 | 4 |
| 養蚕 | 1 |
| その他農業（注1） | 11,450 |
| 農業関連団体等（注2） | 1,095 |
| 合計 | 20,390 |

(注1) 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられないものおよび農業サービス業が含まれています。

(注2) 「農業関連団体等」には、J Aや全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

(注3) 小数点以下を四捨五入しております。

【資金種類別農業資金残高】

単位 百万円

| 種 類 | 2019年3月末現在 |
|--------------|------------|
| プロパー農業資金（注1） | 13,994 |
| 農業制度資金（注2） | 6,396 |
| 農業近代化資金 | 4,555 |
| その他制度資金（注3） | 1,841 |
| 合 計 | 20,390 |

（注1）「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

（注2）「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJAバンク長崎が転貸で融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク長崎が低利で融資するものを対象としています。

（注3）「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】

単位 百万円

| 種 類 | 2019年3月末現在 |
|------------|------------|
| 日本政策金融公庫資金 | 4,277 |
| 合 計 | 4,277 |

（注）JAバンク長崎では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取扱っています。

JAバンク長崎は長崎県の主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金（公庫直貸除く）の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【長崎県の農業近代化資金および公庫農業資金の取扱いシェア】

○農業近代化資金（2018年12月末）

JAバンク長崎 93.44%

○公庫受託貸付金（2019年3月末）

JAバンク長崎 75.25%

（2）担い手のニーズに応えるための取り組み

JAバンク長崎では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

JAでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、2018年度末時点で7JA・34名配置しています。

JA系統独自の農業融資資格制度「JAバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は2018年度末時点で県内に49名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

(3) JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

具体的取組事例

JAの金融・畜産・営農・経済各部の部長、貸付担当、農機センター長が集まり、各部門が持つ組合員の情報を共有、農業融資の重要性についての意見交換等を目的として、事業間連携会議を開催しました。

JAの農業融資担当者と農林中央金庫職員による、農業者や農業法人への同行訪問を定例化し、新しい案件の発掘に取り組んでいます。

(4) 農業メインバンクCS調査の実施と結果の活用

JAバンク長崎では、JAの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンクCS調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

JAバンク長崎は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

JAバンク長崎では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金等を取扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】 単位 件、百万円

| | 2018年度実行件数 | 2018年度実行金額 | 2019年3月末残高 |
|---------|------------|------------|------------|
| 青年等就農資金 | 54 | 346 | 1,057 |
| 就農支援資金 | — | — | 89 |
| 合計 | 54 | 346 | 1,146 |

【農業所得増大・地域活性化応援プログラム新規就農応援事業の助成実績】

新規就農応援事業の2018年度の実績は、以下のとおりとなっています。

<営農支援事業> 84件 16,800千円

<研修支援事業> 5件 1,620千円

(2) 農商工連携の推進

J Aバンク長崎は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【2018年度 商談会等開催状況】

| 商談会名 | 開催日 | 主催者 | 参加団体数 | 総来場者数 | 内容 |
|-------------------------|----------------|----------------------|-------|-------|--------------|
| J A・JF グループ九州・沖縄食の発信商談会 | 2019年 2月20日 | 九州・沖縄各県J Aバンク・農林中央金庫 | 67団体 | 約100名 | 全体での商談件数208件 |

(3) J Aバンク長崎講演会・セミナー等の開催・参画

J Aバンク長崎では、一流の経営者を招いた講演会や、6次産業化・輸出・ブランドに関するセミナー等を開催し、担い手の経営力向上に貢献しています。

【2018年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

| 講演会・セミナー名 | 開催日 | 主催者 | 対象参加者 | 参加者数 | 内容 |
|-----------------|----------------|-------------|---------------------------|------|-------------------|
| J A九青協リーダー養成研修会 | 2018年 4月25日 | 長崎県農協青年部協議会 | 長崎県農協青年部メンバー、J A長崎県中央会役員等 | 62名 | 題目「農業・農協改革の現状の理解」 |

(4) 農業法人とのネットワーク拡大

J Aバンク長崎では、農業法人とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでいます。

(5) 被災者等への支援

J Aバンク長崎では、生産資材の高騰を受けて農家救済資金を創設するなど、担い手に対する経営支援に取り組んでいます。

単位 件、百万円

| 取組事例 | J A名 | 内容 | 件数 | 貸付実行金額 |
|-------------------|-----------|---|-----|--------|
| 春じゃが価格低迷による緊急対策資金 | J Aながさき県央 | 春じゃがの価格低迷による対策として、1.2%の低利資金を創設しました。 | 23 | 61 |
| 農家救済資金 | J A島原雲仙 | 2018年産春野菜（馬鈴薯・トマト等）の異常なレベルの価格低迷が続き、運転資金等の緊急支援資金の対応が必要と判断し、行政（市）の利子補給対応と合わせ、特別資金の融資を行いました。 | 200 | 400 |
| 平成30年度経営緊急対策資金 | J Aごとう | 2018年7月の台風7号により農畜産物の被害を受けた組合員に対し、低利資金を対応しました。 | 6 | 9 |

(6) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク長崎では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【2018年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

| | 期初経営改善支援取組先 A | Aのうち再生計画を策定した先数 a | Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b | Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c | 再生計画策定率 = a / A | ランクアップ率 = b / A | |
|---------------|----------------|-------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|------|
| | | | | | | | |
| 正常先① | 11 | 0 | — | 9 | 0.0% | — | |
| 要注意先 | うち その他要注意先② | 20 | 5 | 1 | 16 | 25.0% | 5.0% |
| | うち 要管理先③ | 17 | 0 | 1 | 9 | 0.0% | 5.9% |
| 破綻懸念先④ | 12 | 1 | 4 | 5 | 8.3% | 33.3% | |
| 実質破綻先⑤ | 21 | 0 | 5 | 12 | 0.0% | 23.8% | |
| 破綻先⑥ | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | |
| 小計 (②～⑥の計) | 70 | 6 | 11 | 42 | 8.6% | 15.7% | |
| 合計 | 81 | 6 | 11 | 51 | 7.4% | 13.6% | |

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は2019年3月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

J Aバンク長崎では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み (ファンドの活用)

J Aバンク長崎では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

2018年度までのアグリシードファンドの実績は、7件、41,240千円となっております。

(2) 6次産業化の支援

J Aバンク長崎では、担い手の所得向上を支援するために、生産と販売のマッチング機能強化や、需要拡大が見込める分野の事業展開支援、いわゆる6次産業化促進支援を行っています。

(3) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク長崎では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取扱っています。

【2018年度 負債整理資金の貸出実績】

2019年3月末残高は、以下のとおりとなっています。

| | |
|--------------------|--------|
| <農業経営負担軽減支援資金(注1)> | 161百万円 |
| <畜産特別資金(注2)> | 259百万円 |
| <その他> | 547百万円 |
| 合計 | 967百万円 |

(注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取扱っています。

(注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取扱っています。

(4) 動産担保融資の活用

J Aバンク長崎では、農畜産物や事業用車両、各種在庫など様々な動産を担保とした融資を行い、不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資等への取組みを行っております。長崎県における融資の実績は次表のとおりです。

【動産担保融資活用実績】

単位 件、百万円

| | 2018年度末 | |
|------|---------|-------|
| | 件数 | 残高 |
| 農産物 | 0 | 0 |
| 畜産物 | 179 | 888 |
| 機械設備 | 1 | 20 |
| その他 | 15 | 207 |
| 合計 | 195 | 1,115 |

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク長崎では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 食・農への理解促進

J Aバンク長崎は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、J Aバンク長崎を通じて、2018年度には県下の約330の小学校に対して、小学校5年生と先生方分として、約14,000冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下J Aでは、食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【J Aバンク食農教育応援事業による活動内容】

| J A名 | 活動名 | 申請数 | 活動内容 |
|--------|------|-----|------------------------------------|
| 長崎せいひ | 農業体験 | 28 | 稲作、野菜栽培（きゅうり、さつまいも）、果樹栽培（びわ）、みそ作り |
| ながさき県央 | 農業体験 | 17 | 稲作、野菜栽培（人参、じゃがいも）、もち米作り |
| 島原雲仙 | 農業体験 | 22 | 稲作、野菜栽培（大根、じゃがいも）、果汁栽培（いちご）、もちつき大会 |
| ながさき西海 | 農業体験 | 16 | 稲作、野菜栽培（さつまいも、人参）、果樹栽培（みかん）、みそ作り |
| ごとう | 農業体験 | 8 | 稲作、野菜栽培（さつまいも）、小麦・そば栽培、うどん・そば作り |
| 壱岐市 | 農業体験 | 4 | 稲作、野菜栽培（さつまいも、きゅうり）、もち米作り、もちつき大会 |
| 計 | | 95 | |

5 地域密着型金融の取組事例

別紙のとおり

以上

地域密着型金融の取組事例について

営農サポート資金における保証料助成による農業者所得の向上

長崎県JAグループ(長崎県)

どちらかに○を付けてください。

| | |
|----|---------|
| 新規 | 継続 |
| ○ | (年 月) |

| | |
|----------|---|
| 1 動機(経緯) | 県域創設資金である営農サポート資金につきましては、2016年7月から2018年3月末までは最大1%の利子補給を行い、農業融資残高の伸長に貢献しました。利子補給の終了に伴いJAから多くの要望があったため、代替策として2018年度は「営農サポート資金の保証料助成」を実施しました。JA内での本資金の浸透、農業融資担当者の営業活動の活性化に加えて、長崎県JAバンクが引き続き連携して本対応を行っていくことにより、農業融資残高のさらなる上積み、組合員の農業所得の増大を目指しました。また、本対応に併せて資金使途に農機クレジットの借換を追加したことにより、利便性の向上が図られることから、今後新たなニーズ喚起も期待できます。 |
| 2 概要 | 事業名 JAバンク保証料助成事業 対象資金 営農サポート資金 事業期間 2018年4月1日～2019年3月31日 助成範囲 事業期間内に新規実行した営農サポート資金に対する保証料全額 |
| 3 成果(効果) | ① 2018年4月～2018年12月の実績 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規貸出額：270件/655百万円(前年同月末対比+43件/+141百万円) ・ 営農サポート資金残高：1,400百万円(前年同月末対比+503百万円) ② JAの農業融資担当者の営業活動の活性化 |
| 4 今後の予定 | 2019年度につきましても、JAバンク保証料助成措置等を活用することで、農業者の資金借入に係る費用負担を軽減し、多様な資金ニーズへの対応に努めると共に、農業融資の更なる伸長の為、取組強化に努めます。 |